

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは4号館Jr.		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日	～	令和 8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日	～	令和 8年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 1月 5日	～	令和 8年 1月 15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内の他職種の職員と連携をとり、支援に繋げることができている。	療育後には、必ず昼礼や終礼を設け、職員間で共通理解を図るようにしている為、全ての支援者が同じ方向性を持って支援できるように取り組んでいる。	学校、ご家庭、訪問先等と連携を図り、よりよい支援を行えるようにする。
2	個々の児童のアセスメントを適切に行っている事で、課題を客観的に分析した上で職員全体で会議をしながら充実を図っている。	常に児童の事に対して、不明な点や困り感があれば職員間で共有し、よりよい支援につながるよう日々会議を行っている。	必要があれば適宜学校でも会議を持つなどして、本児が安心・安全に学校生活が送れるよう訪問先の先生とも密に情報共有を行っていく。
3	保育所等訪問支援を利用する児童は、児童発達支援や放課後等デイサービスと併用になる為、学校の様子と事業所での様子を比較しながら支援ができる。	モニタリング等の会議や送迎時に学校等の様子や事業所での様子を共有し、同じ方向性で支援ができるようにしている。	療育現場と教育現場で行える支援は異なることを理解し、支援を行う際には先生の負担や周りの児童への影響を考え、配慮する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援を開始できていない。	保護者が保育所等訪問支援をご存じない方が多いと考えられる。	保育所等訪問支援が必要である児童の保護者へ支援の内容を説明し、利用を促していく。
2	保護者会が無い事で保護者間の共有する悩みや知り合いの輪を広げることが少ない。	事業所内で保護者向け研修を開催し、保護者の集まる機会は設けているが、保護者同士の交流の場にまでは至っていない。	保護者研修会に加えて、保護者同士での交流も行えるように環境を設定する。
3	訪問支援員の育成ができていない。	児童デイサービスでの経験はあるが、訪問支援員としての十分な経験のあるスタッフが少ない為、法人内での情報共有を行いながら支援開始に向けての人材育成に取り組んでいる。	法人内での事例検討会や研修に積極的に参加し、適宜アドバイスをもらい、支援に繋げていく。